公報

○内務省達乙第拾貳號　府縣

明治十一年(十二月)當省乙第八拾壹號達第二項左ノ通改正候條此旨相達候事

一郡區長ノ席順ハ月俸ノ多寡ニ據リ其月俸同シキモノハ拜命ノ前後ニ依ル

但奏任郡區長ハ總テ判任郡區長ノ上席トス

明治十七年二月二十八日　内務卿山縣有朋

○陸軍省達甲第拾三號　東京名古屋兩鎭臺管下府縣

別紙之通東京名古屋兩鎭臺ヘ相達候條爲心得此旨相達候事

明治十七年二月二十八日　陸軍卿西郷從道

(別紙)　東京鎭臺

今般軍管疆域改正相成候ニ付テハ其臺管下現役歩兵ノ内本年七月ニ於テ十五年十六年徴集ノ者各五名ヲ府縣ニ平均シ末番號ノ者ヨリ歸休可申付此旨相達候事

但舊徴兵事務條例第百二十二條ニ依リ歸休ノ者同樣可取扱事

明治十七年二月二十七日　陸軍卿西郷從道

名古屋鎭臺

今般軍管疆域改正相成候ニ付テハ軍隊編制ノ都合有之候就テハ其臺管下現役歩兵ノ内本年七月ニ於テ十五年徴集ノ者ハ十三名十六年徴集ノ者ハ十二名ヲ各縣ニ平均シ末番號ノ者ヨリ歸休可申付此旨相達候事

但舊徴兵事務條例第百二十二條ニ據リ歸休ノ者同樣可取扱事

明治十七年二月二十七日　陸軍卿西郷從道

○海軍省達丙第三拾八號　海軍一般

明治十六年(十二月)丙第百拾六號省達下士以下被服給與概則第十條左ノ通改正ス此旨相達候事

明治十七年二月二十八日　海軍卿川村純義

脱艦脱營ノ者被服並附屬物品ヲ該艦船營ニ殘シ在ルトキハ常備艦ニ在テハ本人ノ闕ヲ補フトキ該品ハ本人名籍ト共ニ鎭守府屯營ニ在テハ本人脱走ノ日ヨリ五週間ニ歸投セサレハ該品ハ本人名籍ト共ニ所轄廳ヘ完納シ處刑濟ノ上復役或ハ放免スル者ハ其節ニ至テ之ヲ下附ス

○内務省告示甲第五號

出版圖書知成納本ノ儀ハ自今當省圖書局ヘ差出スヘシ此旨告示候事

但明治九年(一月)甲第貳號布達納本書式宛名ハ局長ト改正ス

明治十七年二月二十八日　内務卿山縣有朋

敍任

○明治十七年二月廿七日

任大藏少書記官　非職内務少書記官從六位　吉田市十郎

時事新報

日本形船製造ノ禁止ヲ望ム

學問日新ノ結果トシテ發明工夫陸續輩出スル其際ニハ新發明ノ便非常ニ便ニシテ舊工夫漸ク顔色ヲ失ヒ新舊交代シテ爰ニ從來ノ種類方法ヲ變換スルコアリ而シテ其之ヲ變換スルノ當初ニハ當局者ニ取リテ一時狼狽ノ觀ヲ呈スルナラント雖ドモ優存劣滅ハ世事化轉ノ法則ニシテ一局部ニハ縱ヒ多少ノ不都合ヲ生ズルモ文明社會ノ全面ヨリ觀察スレバ先ヅ以テ慶賀セザルヲ得ズ左レバ日新文明ノ世界ニテ新舊交代ノ變ヲ察シ外新ト共ニ推移シテ新發明ノ利ヲ利用スルハ獨リ一個人ノ私ニ於テ得策ナルノミナラズ一國ノ公ノ爲メニモ兼テ又便益ヲ與フルモノト云フ可シ蓋シ新工夫ノ流行盛ニシテ舊物忽ナ屏息スルトキハ從來舊慣習ノ運用ニ慣レタルモノニテモ舊ヲ棄テ、新ニ就キ早晩外物ノ變遷ニ隨伴スルヲ通例トス細事ヲ以テ之ヲ例スレバ王政維新斷髮ノ風行ハレテ世上復タ權髻ヲ見ザルニ至リタレバ髮結床モ世風ニ從ヒ結髮ノ手職ヲ變シテ專ハラ截髮ヲ業トスルコトバナレリ脱刀ノ令一タヒ下リテ研刀師(トギ)ハ剃刀(カミソリ)研(トギ)ト變シ拐糸下緒師(ツカイトサゲヲ)モ亦其職ヲ變シテ羽織ノ紐ヲ製スルガ如キ孰レモ時世ニ順應シテ商機新方法ニ移リタルモノナラン近來西洋諸國ニテ學問進歩ノ結果トシテ蒸氣船車ヲ發明シ次第ニ之ヲ改良シ次第ニ之ヲ利用シテヨリ運輸交通ノ道ニ快疾ヲ加ヘシノミナラズ巨萬ノ財貨ヲ運送スルニモ破損遭難ノ危險稀ニシテ各自商人ノ安心ハ申スニ及バズ從來幾百千万ノ貨物ヲ擧ケテ其安危存亡ヲ脆弱ナル風帆船ノミニ托シタルノ日ニ比スレハ一國全體ノ商政ニ向テモ明晴陰顯好影響ヲ及シタルガ故ニ今ハ風帆船ヲ用ヰルモノナク殆ント其類ヲ絶ダントスルノ有樣アリ英國ニテモ最近十年間ニ汽船ノ新ニ船籍ニ入リタルモノ二千百三十三艘ニシテ同十年間ニ除籍シタル風帆船ノ數三千〇五十三艘ナリト云フ畢竟優存劣滅ノ作用ニシテ新舊交代シタルモノト云フ可キノミ蓋シ風帆船ノ迂濶ニシテ危險ナルハ今更之ヲ喋々スルヲ要セズ我北國ノ材木商ノ話ヲ聞クニ昔時江戸ノ地震ニハ失火之ニ伴フガ故ニ江戸ノ地震ト聞ケハ爭フテ材木ヲ船廻シスルヲ例トシタレド震災ノ後ハ海上モ何トナク穩カナラズト見ヘ破船ト安着ト殆ンド相半バシテ時トスレバ得失相償ハザルコアリト此一話ヲ以テ考フルモ風帆船ノ航海ハ安危偶中、運ヲ天ニ任スルモノニテ商人荷主ノ不安心ハ申ス迄モナク人命財産ヲ擧ケテ之ヲ海底ノ藻屑ニ歸スルコ其幾千万ナルコヲ知ラズ斯カル事ノ次第ナレバ我邦ニテモ維新以來漸ク蒸氣船ヲ採用シテ漸ク近海ノ運輸ヲ試ミテヨリハ日本形船ノ用モ次第ニ縮マリ今後モ益其數ヲ減ズルナラント雖ヒ元ト此船ハ數千年來運輸ノ舊機關ナルガ故ニ種々樣々ノ事情ニ扶ケラレテ容易ニ其跡ヲ一掃スルコ能ハザルナリ故ニ我輩ガ今日ニ於テ特ニ我政府ニ望ム所ハ斷然日本形船ノ製造ヲ禁シ今後三百石以上ノ船舶ハ必ズ西洋形ニ倣フテ製造ス可シト令スルノ一事是ナリ人或ハ日本形船ノ減絶ハ誠ニ結構ナリト雖ヒ之ヲ自然ノ成リ行キニ任セズシテ故ラニ之ヲ禁ズルハ政府一個人ノ權理私事ニ立入ルノ嫌アリト云フモノモアラント雖ヒ畢竟謂レナキノ甚シキ者ナリ政府ガ日本形船ハ動モスレバ人命財産ヲ危ウスルノ恐アリトテ其製造ヲ禁ズルヲ見テ權理私事ニ立入ルモノナリト評セバ佩刀ハ動モスレバ傷害闘爭ヲ生スルノ恐アリトテ其佩用ヲ禁ズルモ亦一個人ノ權理私事ニ立入ル者ト云フ可シ我政府ハ既ニ脱刀ノ令ヲ下シタリ今日ニ及ンデ日本形船ノ製造ヲ禁ズルハ決斷シ得テ甚ダ妙ナリト許セザル可ラズ况ンヤ劍ハ一人ノ敵ニシテ怪我間違甚ダ少ナリト雖ヒ船舶覆沒ノ憂ハ其危害頗ル大ナルニ於テヲヤ且ツ此日本形船ノ製造ヲ禁ズルハ唯今後ノ新造ヲ禁スルノミニシテ在來ノ船舶ヲ運用スルヲ禁スルニ非ザレバ船主ニ取リテモ決シテ不利ヲ來スコナシ我北國ノ船主杯ハ或ハ暗ニ之ヲ喜フノ意味モアラン我北國地方ノ船主ハ從來ノ仕組ニ於テ譜代恩顧ノ船頭舟子アリ而シテ此船頭舟子ト船主トノ關係ハ恰カモ封建時代君臣主從ノ趣ヲ存シテ其間柄ハ金錢ヲ離レテ情實ヲ以テ成ルモノナリ故ニ船主ノ身分トシテハ縱ヒ日本形船ノ不利ヲ知ルモ故ナク之ヲ廢スレバ船頭舟子ノ迷惑ヲ來サンコヲ慮リ因循苟且其舊機關ヲ守リ在來ノ船舶漸ク破損スレバ是レモ舟子ノ功傳ノ爲メナリ其レモ船頭ノ糊口ノ爲メトテ瞑目シテ第二ノ日本形船ヲ造リ以テ舟子ノ失業ヲ救ハザルヲ得ズ之ヲ救ヘハ更ニ又第二ノ舟子ヲ生シ舟子ノ爲メニ船ヲ造リ船ノ爲メニ舟子ヲ生シ隨テ生シ隨テ造リ殆ンド際限アル可ラズ若シ我政府ニテ日本形船ノ新造ヲ禁ズルノ令ヲ下スコモアラバ船主モ船頭舟子ニ對シテ愛ヲ割クノ口實ヲ得、在來ノ船舶ノアラン限リニテ爾後ハ西洋形船ヲ製造スルノ好機會ニ遇フコヲ得ン左レバ今日ニ於テ三百石以上ノ日本形船ヲ製造スルヲ禁ズルハ天下船主ノ資本ヲシテ文明ノ事業ニ注カシメ運輸交通ニ快疾ヲ加ヘ人命財産ヲシテ覆沒ノ患ヲ免レシメ一方ニハ蒸氣船舶ヲ發達進歩スルノ障碍ヲ除キ一國ノ商政ニ向テハ非常ノ好結果ヲ呈ス可シ我輩ハ世人ト共ニ此好結果ノ賜ヲ仰カント欲スルナリ

電報

○一月廿五日龍動發　英國下院ニては長々しき討論の末女皇陛下の演説に對する答書を議定したり○埃及スワキム在留の黒人ハ抗官の樣子を現したるを以てカイロ府に派らるゝあらんスワキムにては之れが爲め兵隊を減却するとなり其勢頗る危く目下は唯海軍を以て之を守衛するが故に甚た脆弱なる有樣あり

○二月十五日龍動發　英國の兵隊は二月十九日にスワキムに到着せんとす○英國租税脩チルダル氏ハ下院の疑問に答へて余は議院に向て埃及に關そる議決を得んとすと述へたり

雜報

○山階宮　同宮には愈來月洋行遊はさるゝに付き近日より神奈川縣下江ノ嶋鎌倉箱根等へ御遊歩せらるゝとのとなり

○遊獵　河村海軍卿及び樺山同大輔ハ昨日午前七時上野發の滊車にて遊獵の爲め熊谷地方へ赴きたる由

○皇太后大夫後任　皇太后大夫万里小路君の薨去に付き其後任ハ楫取群馬縣令あらんとの噂あり

○京都府知事更任の噂　香川宮内少輔は近々京都府知事に轉任し北垣同府知事は某省に轉任するならん杯の噂あれども如何のものにや